

1 目的と期待される効果

（1）目的

普通科の教育課程において、地理歴史、公民に関する各科目の内容をグローバル・リーダー育成の目的で編成し直した学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」を設定する。当該学校設定教科の学習を通して、日本と世界の諸地域の歴史・伝統や言語・生活・文化の地域的特色への興味・関心を高め、基本的な概念や制度、人間の生き方等について理解を深めるとともに、国際社会で活躍する上で必要な思考・判断・表現する能力、語学力、語彙力、コミュニケーション能力を養う。

（2）期待される効果

この科目の学習を通して、グローバルな社会課題に対する関心と解決に向けた意欲が高まり、探究心、コミュニケーション能力が身に付くことが期待できる。

2 内容

次の①～⑥を学校設定科目として設定する。

- ① GL世界史（世界史Bの代替）普通科1年
- ② GL日本史（日本史Bの代替）普通科2年（選択）
- ③ GL地理（地理Bの代替）普通科2年（選択）
- ④ GL倫理（倫理の代替）普通科3年
- ⑤ GL政治・経済（政治・経済の代替）普通科3年
- ⑥ GLアクティブ（原則として週時程外で実施）普通科1～3年

3 実施方法

上記の①～⑥学校設定科目については、代替する科目の内容をグローバルな視点を重視して見直し、積極的にICT機器を活用して、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

なお、⑥「GLアクティブ」は、国内グローバル研修、海外グローバル研修、大学や企業、研究施設等における講義や講習等の出席状況や研修成果、活動状況等を評価に加え、単位を認定する。

4 検証評価方法

入学した直後に普通科の生徒及び保護者に対して「グローバル・リーダー」に関するアンケート調査を行う。1年後、2年後に同様のアンケート調査を行い、変容を見る。調査結果はSGH運営指導協議会で検証し、評価する。また、教員にもアンケート調査を4月及び年度末に行い、教員の意識の変容を見る。さらに、卒業時の大学進学実績をこれまでのものと比較検討し、検証評価する。大学卒業後についても、追跡調査を行う。

5 実施内容

(1)「GL世界史」による「GL探究」「GLアクティブ」との横断的授業

授業実践報告 GL世界史「ステレオタイプについて考える」

I. 本実践の位置づけ

本実践は、第1学年を対象とした探究学習講演会「世界に対するステレオタイプをどう克服するか」（10月27日実施）の事前学習としての位置づけである。生徒自身の身の回りでステレオタイプ化していると思われる考え方や価値観を取り上げ、実態はどうか、なぜそのような考え方や価値観が生まれてきたのかという歴史的背景を調べる活動を通じて、生徒が社会に対してもっている既存の知識や価値観を揺さぶることをねらいとした。

II. 実践概要

- 1) 実施時期 2020年10月下旬
- 2) 対象生徒 第1学年普通科
- 3) 単元名 「ステレオタイプについて考える」
- 4) 単元の指導計画および単元目標 【(計4時間)】
 - ・「ステレオタイプ」とは何か(2時間) ※ 本時1/2
 - ・探究講演会(2時間) 10月27日(火)6・7限

【単元目標】

- ・世の中におけるさまざまな事象に関する見方が特定のものに偏っていないかどうか自覚的になり、幅広い視野で物事を考えるような態度を養う(関心・意欲・態度)
- ・自身もつステレオタイプについて、他者との意見交換を通じて批判的に思考し、多面的・多角的な視点からとらえなおすことができるようになる(思考・判断・表現)
- ・インターネットなどの諸資料を活用し、世の中に広がっている価値観を多面的・多角的な視点から調査することができる(資料活用 of 技能)
- ・世の中にはあらゆることについて、固定的なイメージが蔓延していることを知る(知識・理解)

5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
世の中におけるさまざまな事象に関する見方が特定のものに偏っていないかどうか自覚的になり、幅広い視野で物事を考えられるようになったか。	自身もつステレオタイプについて、他者との意見交換を通じて批判的に思考し、多面的・多角的な視点からとらえなおすことができたか。	インターネットなどの諸資料を活用し、世の中に広がっている価値観を多面的・多角的な視点から調査することができたか。	世の中にはあらゆることについて、固定的なイメージが蔓延していることを知ることもできたか。

6) 本時の目標

- ・自身の持つ考え方がステレオタイプである可能性について自覚的になり、あるものの見方について他者と意見交換をすることで、多角的に物事をとらえられるようになる。
- ・自身の考えているステレオタイプについて、その実態はどのようなものであるかを調べ、まとめることができる。

7) 使用教材 ワークシート、授業用スライド、chromebook (生徒の調べ学習に使用)

※ ワークシートおよび授業スライドはIV. 資料編に掲載

8) 本時の展開

段階 時間		学習内容・学習活動 評価の観点	指導上の留意点 (※) 配布資料 (☆)
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動内容を確認する (3分) ・ ステレオタイプの概要について知る (7分) → ステレオタイプの辞書的な定義、具体例をいくつか提示したうえで、この単元で身の回りにあるステレオタイプについて考えていくことを確認する 	☆ ワークシート
展開	33分	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステレオタイプについて個人で考える (10分) 自身が持つイメージや知識について、ステレオタイプだと思うことを思いつく限り書き出す。 	※ 机間指導を行い、あまり考えが浮かんでいない生徒には適宜ヒントを与える ※ 正解はないことを伝え、自由な発想で書きだせるように促す
		<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで意見を共有、検討する (10分) 各自が書いたイメージについて、他の見方や実態はどのようなものであるかを4人1グループで共有し、意見交換する 	☆ クロムブックをグループに1台ずつ配布し、インターネットを利用して調べてもよいことを伝える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを3つ決め、掘り下げる (13分) グループで上がったものの中から、3つを任意で選び、そのようなイメージが形成された歴史的背景、そこから生まれた社会的課題や解決に向けた取り組みなどをクロムブックで調べ、まとめる。 	
まとめ	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのグループが選んだ3つのイメージを発表する ・ 次回も引き続き同様の作業を行っていくことを確認する。 	※ 調べた内容については発表しなくてよい

9) 本時の評価

- ・ 自身の持つ考え方がステレオタイプである可能性について自覚的になり、あるものの見方について他者と意見交換をすることで、多角的に物事をとらえられるようになったか。
- ・ 自身の考えているステレオタイプについて、その実態はどのようなものであるかを調べ、まとめることができたか。

III. 本実践の成果と課題

どの生徒も積極的に活動に取り組む様子が見られた。個人での活動の際にはあまり考えが浮かんでいなかった生徒も、グループで意見を共有する時間には他の生徒の意見を受けて自分なりに考えをまとめることができていた。以下に生徒が取り上げたテーマを掲載する (一部抜粋)。

- | | | |
|-------------------------------------|--------------------|-----------|
| ・ 男女で服や色が決まっている | ・ 西アジアはイスラム教徒が多い | ・ 野球部は坊主頭 |
| ・ ハーフの人は英語を話せる | ・ 眼鏡をかけている人は頭がよさそう | |
| ・ 医者は男性、看護師は女性になるもの | ・ 「リケジョ」という言葉について | |
| ・ 食事をおごってくれる人はカッコいい | ・ 結婚の時に男性の名字をとる | |
| ・ 地域や国によってその場所に暮らす人に対してのイメージが決まっている | | |

生徒が取り上げたテーマは上記のように多岐にわたっていた。例でジェンダー、血液型、歴史についてのステレオタイプをとりあげたこともあり、特にジェンダーに関するテーマが多かった。

＜本実践と講演会を受けての感想（一部抜粋）＞

- ・日々当たり前だと思っていたことも、実は大きな勘違いであったかも知れない。そういうことを気づかせてもらったと思った。
- ・勝手なイメージを当たり前かのようにみんなが持っていることで、その方にはめられた人たちがいやな思いをすることにつながってしまうと思います。イメージにとらわれず、自分で相手と向き合うことが大切だと思いました。
- ・宗教、歴史は特にステレオタイプが多いと感じた。
- ・ステレオタイプの考えに陥らないためには、まず調べ、正しい情報を得ることが前提だと思った。
- ・他の班の人の話を聞いて、自分では思いつかなかったことが言われてみるとステレオタイプかも知れないと思うものがありました。

これらの記述から、多くの生徒が身の回りにある考え方や価値観が一つの側面に過ぎないことに気づくことができたと思える。多様化する社会において、自分とは違う他者を理解し、受容することは相互理解の第一歩である。社会事象に対して多面的・多角的に考察するようになるは、学習指導要領においても教科の目標として定められていることである。この点においても、広い視野で物事をとらえようとする態度が見られるようになりつつあるのは一つの成果であろう。

＜本実践の課題＞

一点目は、生徒の調べる時間が少し不足していた点である。班で意見を共有し、そこから3つテーマをあげさせたが、分担して調べる作業にとどまり、調べた内容をより深める活動を行うことができなかった。この授業は講演会の事前学習として単発的に組んだものであり、通常の学習の進度を踏まえるとこれが限界であったように思える。よって、総合的な探究の時間なども活用し、調べた内容を発表する機会を設けることが必要であった。

二点目は、テーマによっては取り上げた考え方や価値観の歴史的背景を調べるのが難しいという点である。今回、生徒の思考の幅を狭めたくなかったために内容まで指定することはしなかった。そのため、テーマによってはあまり深く調べることができなかったものもあった。これまで生徒が学習した世界史の事項と取り上げたテーマに何らかの関連性が見られると、総合的な探究の時間と地歴の教科横断的な学習となり、より深い学びになったであろう。このバランスが今後の検討課題である。

IV. 資料編

① 授業で使ったスライド

ステレオタイプとは
ステレオタイプ (stereotype)
 … 社会学の用語
 一般的には「**固定概念 (観念)**」と訳される
 ものの見方・態度や文章が型にはまって固定的であること。紋切り型 (大辞林より)

語源



印刷に用いる複製されたプレート (ステロ版)

例えば




「イクメン」
 「育児は母親 (女性) がするもの」という価値観
性差 (ジェンダー)

他にも



血液型による性格診断

歴史的にみると
 ビゴーが描いた明治期の日本人 (※風刺画)
 名奉行 生念丸



ステレオタイプが持つ影響
 ステレオタイプは我々の認識や思考をしやすいとする
 広島出身なの？
 じゃあカープの選手誰が好き？
 一方で、思い込みにとらわれ、誤った認識・知識につながるという可能性もある
 ひいては特定の集団に対する差別につながりかねない
 参考：日本心理学会「心理学ミュージアム」
 『人に対する思い込み〜ステレオタイプと光と影〜』
 (https://psychmuseum.jp/show_room/stereotype/)

自分の頭の中をとらえなおす
【作業①】
 自分が世の中のことにに対して持っているイメージでステレオタイプだと思ふことを思いっきり書き出してみよう
 ☆「偏った見方かもしれない」と思ふことならなんでもOK
 ⇒ とにかく **考えることをやめない**

共有しよう
【作業②】
 4人グループで、メンバーが書いたものについてそれぞれ確認、検討してみよう
 ・他の班員も同様のイメージを持っていたか
 ・実態はどうなのか など
 (クロムブックで少し調べてもよい)

いくつか掘り下げてみよう
【作業③】
 4人で出し合ったものの中から、3つ選び、クロムブックなどで掘り下げて調べる
 ・そのようなイメージが作られた歴史的経緯
 ・そこから発生した社会的課題
 (・課題解決にむけた取り組み)
 複数の立場を調べてみるが重要！

GL世界史 特別編「ステレオタイプについて考える」
 2020 / 1年組 番 氏名：
 ○ ステレオタイプ (stereotype)：社会学における用語
 … 一般的には「**固定概念 (観念)**」と訳される
 ものの見方・態度や文章が型にはまって固定的であること。紋切り型 (大辞林より)
 印刷に用いる複製されたプレート (ステロ版) が言葉の由来
 ☆ 世の中はステレオタイプである (〜という偏ったステレオタイプ?)
【作業①】
 自分が世の中のことにに対して持っているイメージで、ステレオタイプだと思ふことを思いっきり書き出してみよう

【作業②】
 グループで共有し、他の人も同様のイメージを持っていたかどうかを確認しよう
 <メモ欄>
 メンバーの選出が同様のイメージを持って
 そうでもないもの
 いたもの

【作業③】
 グループで出し合ったものから3つ選び、それぞれ掘り下げて調べ、まとめよう
 (そのようなイメージが作られた歴史的経緯、そこから生まれた社会的課題、解決に向けた取り組みなど)
 ① ② ③